

平成26年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第6回「昔の暮らしから学ぶ②」

(テーマ：生活)

- 実施日時 平成26年8月21日(木) 9時45分～16時15分
□受講者数 18名
□実施場所 八王子滝山里山保全地域、梅里会館
□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局(研究所)から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局環境政策課(企画調整係主事 武元)から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義・体験

(ゲストティーチャー：NPO自然環境アカデミー専務理事 野村亮)

里山とはどのようなところか、里山と人とのつながりや、里山を生活にどのように活用してきたかを現場で見て肌で感じることによって、生物多様性や無駄のない生活を考えるきっかけとすることができる。これらの話を聞き、八王子滝山里山保全地域内に入り実際に体感した後、里山を維持するために必要な竹の間伐を体験し、古くから生活に活用されてきた竹のその活用方法を体験した。



里山についての講義



八王子滝山里山保全地域の今と里山の関わりを里山の中で体感



竹の間伐



間伐した竹での「竹笛・おはし作り」体験

【午後】

3. 環境学習プログラム「食べ物からエコ！」

(講師：特定非営利活動法人 環境学習研究会理事長 谷村春樹)

- ・感性と理性のバランスが大切であること
- ・実感を伴う体験が重要であること
- ・自然界と人間のつながり（生態系）を学び、自然が人間の生命の源であることを理解することで、子ども達が自然や環境を大切にできる人間に成長することなどの話があった。

(1) 「食からエコを考える」プログラム紹介

食料生産について学ぶ学習に、地産地消や旬など環境的な視点を取り入れることにより、食と環境のつながりについて学ぶ。

○フードマイレージの考え方や地産地消の大切さを子供たちに伝える手法を学んだ。講師からは、関連事項として主要な食物の食料自給率などの紹介があった。

○「旬当てクイズ」を通じて、野菜の旬を意識することや、旬の野菜(露地栽培)の方がハウス栽培のものより栄養価が高く、栽培にかかるエネルギー利用量も少ないこと等を考えるプログラムの紹介を行った。

○また、食について考えるきっかけとして、食育カルタやの紹介と作成方法、里山にちなんだ童謡などを活用する方法を学んだ。



環境学習プログラムの講義

(2) まとめ（質疑応答及び発表、受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、受講者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、受講者間で情報を共有した。

今回は、教育の現場で実施するうえで様々な切り口が考えられる「食」をテーマとした研修であり、また先生のほか栄養士なども参加していることもあって、食育や味覚、旬、地産地消などの観点から、授業や給食、家庭での取り組み方についての多様な意見やアイデアが出された。



まとめ発表・情報交換

主な発表

- ・体験することは何よりも得がたい。
- ・里山の授業があるのですぐに生かせそう。
- ・楽しい→分かるということが実感できた。

5. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後解散